

## 運用報告書(全体版)

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／内外／債券
信託期間	2025年3月28日から2030年9月25日までです。
運用方針	信託財産の着実な成長と安定した収益の確保を図ることを目的として、運用を行います。
主要投資対象	主として、以下の投資信託証券に投資します。 ・アイルランド籍外国投資法人「フェルマットUCITS CATボンド・ファンド」Fクラス(アンヘッジドJPY) 円建て投資証券(以下「CATボンドファンド」といいます。) ・DIAMマネーマザーファンド受益証券(以下「マネーマザーファンド」といいます。) ※短期米ドル建債券等を主要投資対象とする上場投資信託証券(以下「短期米ドル債ETF」といいます。)に投資する場合もあります。短期米ドル債ETFについては、規模、流動性、信用リスク、追従するベンチマーク指標の差異等を総合的に判断して、銘柄を決定します。
運用方法	①主として世界のCAT債券を実質的な主要投資対象とし、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保を図ることを目的として運用を行います。 ・各投資信託証券への投資割合は、資金動向や市況動向等を勘案して決定するものとし、CATボンドファンドの組入比率は、原則として高位をめざします。ただし、CATボンドファンドの設定・換金制限、その受渡に関する障害または当ファンドの換金需要に応じる必要等により、CATボンドファンドの組入比率が一定期間高位とならず、マネーマザーファンドおよび短期米ドル債ETFの組入比率を高める場合があります。 ・CATボンドファンドにおいて、実質組入外貨建資産について、原則として対円での為替ヘッジは行いません。ただし、実質的に非米ドル建資産を組み入れる場合は、原則として、対米ドルでヘッジを行います。 ・当ファンドの運用にあたっては、アセットマネジメントOneオルタナティブインベストメンツ株式会社からCATボンドファンドへの投資に関する情報の提供および助言等を受けます。 ②CATボンドファンドの運用は、フェルマット・キャピタル・マネジメント・エルエルシーが行います。
組入制限	投資信託証券への投資割合には、制限を設けません。 デリバティブ取引の直接利用は行いません。 外貨建資産への実質投資割合には、制限を設けません。
分配方針	毎決算時(原則として毎年3月、6月、9月、12月の各25日(休業日の場合は翌営業日))に、繰越分を含めた経費控除後の配当等収益および売買益(評価益を含みます。)等の全額を分配対象額とし、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して、決定します。ただし、分配対象額が少額の場合は分配を行わない場合があります。

<運用報告書に関するお問い合わせ先>

コールセンター：0120-104-694

受付時間：営業日の午前9時から午後5時まで

お客様のお取引内容につきましては、購入された販売会社にお問い合わせください。

### One／フェルマット・CAT債券ファンド (年4回決算型) (為替ヘッジなし)

第1期 <決算日 2025年6月25日>  
第2期 <決算日 2025年9月25日>

受益者の皆さまへ

毎々格別のお引立てに預かり厚くお礼申し上げます。

さて、「One／フェルマット・CAT債券ファンド(年4回決算型) (為替ヘッジなし)」は、2025年9月25日に第2期の決算を行いました。ここに、運用経過等をご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

**アセットマネジメントOne株式会社**

東京都千代田区丸の内1-8-2

<https://www.am-one.co.jp/>

# One／フェルマット・C A T債券ファンド (年4回決算型) (為替ヘッジなし)

## ■設定以来の運用実績

作成期	決 算 期	基 準 価 額					投組	資入	証券比	純 資 産額
		(分配落)	税 分	込 み	期 謄	中 落				
第1作成期	(設 定 日) 2025年3月28日	円 10,000		円 一		% —			% —	百万円 491
	1期(2025年6月25日)	9,907		0		△0.9		96.1		747
	2期(2025年9月25日)	10,340		50		4.9		95.3		831

(注1) 設定日の基準価額は設定当初の金額、純資産総額は設定当初の元本額を表示しております。

(注2) 基準価額の騰落率は分配金込みです。

(注3) 当ファンドのコンセプトに適した指数が存在しないため、ベンチマーク及び参考指標を定めておりません。

(注4) 「投資証券組入比率」にはマザーファンドの比率を含みません。

(注5) △ (白三角) はマイナスを意味しています (以下同じ)。

## ■当作成期中の基準価額の推移

決算期	年 月 日	基 準 価 額		投組	資入	証券比
		騰	落			
第1期	(設定日) 2025年3月28日		円 10,000		% —	% —
	3月末		9,999		△0.0	—
	4月末		9,612		△3.9	95.6
	5月末		9,700		△3.0	95.6
	(期末) 2025年6月25日		9,907		△0.9	96.1
第2期	(期首) 2025年6月25日		9,907		—	96.1
	6月末		9,905		△0.0	96.1
	7月末		10,134		2.3	94.6
	8月末		10,211		3.1	94.7
	(期末) 2025年9月25日		10,390		4.9	95.3

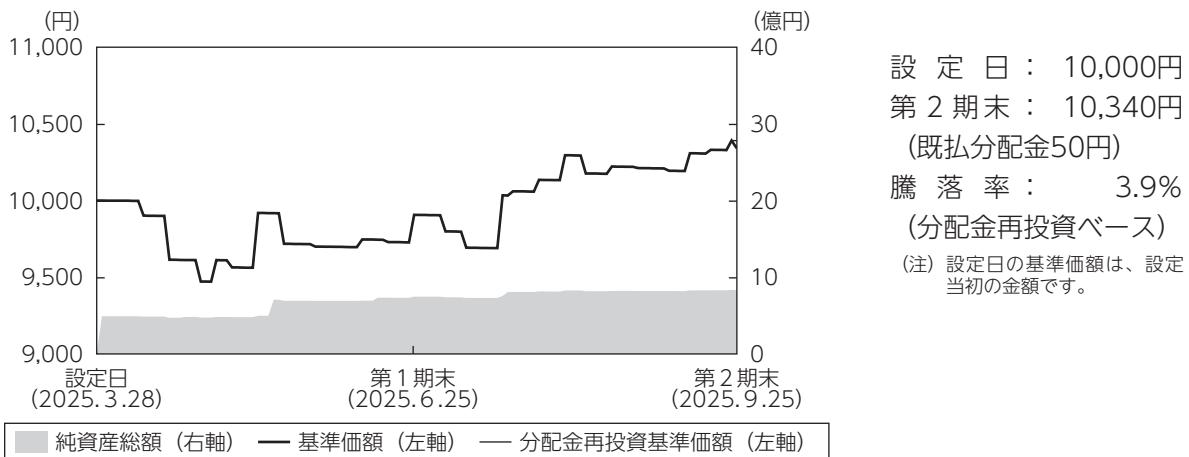
(注1) 設定日の基準価額は、設定当初の金額です。

(注2) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比（第1期は設定日比）です。

(注3) 「投資証券組入比率」にはマザーファンドの比率を含みません。

## ■第1期～第2期の運用経過（2025年3月28日から2025年9月25日まで）

### 基準価額等の推移



（注1）分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

（注2）分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

（注3）基準価額は、設定日前日を10,000として計算しています。

（注4）分配金再投資基準価額は、設定日前日を10,000として指数化しています。

（注5）当ファンドはベンチマークを定めておりません。

### 基準価額の主な変動要因

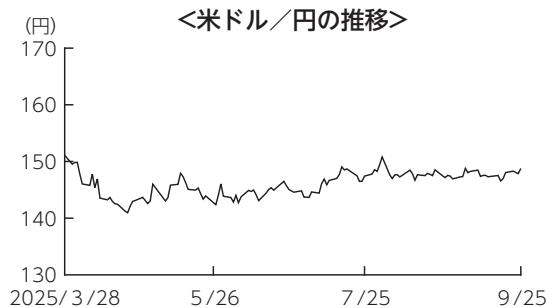
アイルランド籍外国投資法人「フェルマットUCITS CATボンド・ファンド－Fクラス（アンヘッジドJPY）」円建て投資証券（以下「CATボンドファンド」といいます。）への投資を通じて、主として世界のCAT債券に実質的に投資した結果、基準価額は上昇しました。CAT債券の堅調なインカム・ゲインがパフォーマンスを支えたことに加え、キャピタル・ゲインもプラスに寄与しました。

## 投資環境

設定以来、C A T 債券市場に大きな影響を与える災害は期間中に発生しませんでした。作成期初、新たな発行体・発行スポンサーが市場参入するなど、発行市場は活況を呈しました。作成期中、投資需要の増加により需給のタイト化がC A T 債券市場価格を押し上げました。夏場に入り、ハリケーンをカバーするC A T 債券は季節性の面で価格が上昇し易い時期に入っている為、スプレッド（利回り格差）は縮小傾向となりました。

国内短期金融市場では、3ヵ月物国庫短期証券利回りは0.3%台から0.4%台のレンジ内で上下する動きとなりました。

為替市場では、期間中に上下に動きましたが、通期では円／米ドルはほぼ横ばいでした。作成期初、トランプ政権の関税政策による景気不透明感が高まり、米ドルは軟調に推移し、一時的に円高米ドル安の局面にありました。その後、関税交渉が進む中で米経済への懸念が緩和され、米ドルが下げ止まりました。作成期末にかけては、インフレが高止まりする中で日銀が追加利上げに慎重な姿勢を示し、日米の金利差も依然大きいため、円安局面が続きました。



## ポートフォリオについて

### ●当ファンド

CATボンドファンドの組入比率を高位に維持しました。また、DIA Mマネーマザーファンドへの少額投資も行いました。

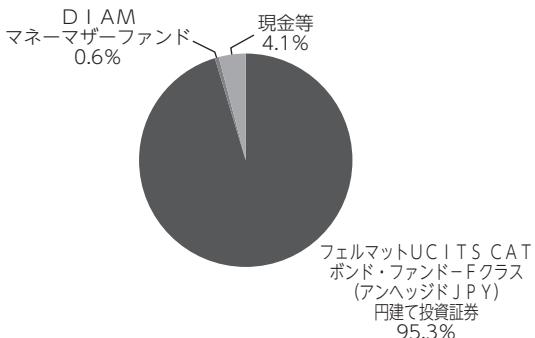
### ●フェルマットUCITS CATボンド・ファンド-Fクラス（アンヘッジドJPY）円建て投資証券

主として世界のCAT債券に投資することにより、リターンの獲得をめざします。投資対象とする大部分のCAT債券は満期までの期間が1～5年です。投資にあたっては、徹底的な調査、独自のモデルを活用したリスク分析および価格分析を行い、各CAT債券の投資機会を評価します。当成期は発行市場や流通市場における投資機会に応じて、リスク対比期待リターンが高いと判断される銘柄へ優先的に投資を行いました。

### ●DIA Mマネーマザーファンド

残存期間の短い国債などで運用を行いました。

## ポートフォリオ構成（2025年9月25日現在）※比率は純資産総額に対する割合です。



## 分配金

収益分配金につきましては運用実績等を勘案し、以下の表の通りとさせていただきました。なお、収益分配金に充てなかつた利益は信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

### ■分配原資の内訳（1万口当たり）

項目	第1期	第2期
	2025年3月28日 ～2025年6月25日	2025年6月26日 ～2025年9月25日
当期分配金（税引前）	－円	50円
対基準価額比率	－%	0.48%
当期の収益	－円	50円
当期の収益以外	－円	－円
翌期繰越分配対象額	－円	390円

(注1) 「当期の収益」および「当期の収益以外」は、小数点以下切捨てで算出しているためこれらを合計した額と「当期分配金（税引前）」の額が一致しない場合があります。

(注2) 当期分配金の「対基準価額比率」は「当期分配金（税引前）」の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。また、小数点第3位を四捨五入しています。

(注3) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後・繰越欠損補填後の売買益（含、評価益）」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「分配準備積立金」および「収益調整金」から分配に充当した金額です。

### 今後の運用方針

#### ●当ファンド

引き続き、C A Tボンドファンドを高位に組入れることを基本とした運用を行い、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざします。また、国内短期金融市场や資金動向に留意しつつ、D I A Mマネーマザーファンドへの投資も行います。

#### ●フェルマットU C I T S C A Tボンド・ファンド－Fクラス（アンヘッジドJ P Y）円建て投資証券

今後の運用戦略については、償還銘柄からの入れ替えや、ファンドへの資金流入に伴う新規投資などを継続的に行い、新発債および流通市場における機会を捉えた投資を継続する方針です。中長期的にリスク対比リターンの面で投資妙味が高いと判断される新発債への投資や、流通市場で割安に放置され価格上昇の可能性が高いと判断される銘柄へのアクティブな投資を行います。

#### ●D I A Mマネーマザーファンド

日銀は2025年9月の金融政策決定会合で、政策金利を0.50%とする金融政策を維持しました。日銀は引き続き政策金利の引き上げを行うと見られますが、欧米のような大幅な利上げは見込まれず、今後の金利上昇は限定的なものとなると想定されます。そのため、今後も公社債等への投資を通じ、安定的な運用をめざします。

## ■ 1万口当たりの費用明細

項目	第1期～第2期 (2025年3月28日～2025年9月25日)		項目の概要
	金額	比率	
(a) 信託報酬	56円	0.565%	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は9,923円です。 投信会社分は、信託財産の運用、運用報告書等各種書類の作成、基準価額の算出等の対価 販売会社分は、購入後の情報提供、交付運用報告書等各種書類の送付、 口座内でのファンドの管理等の対価 受託会社分は、運用財産の保管・管理、投信会社からの運用指図の実行等の対価
(投信会社)	(27)	(0.274)	
(販売会社)	(27)	(0.274)	
(受託会社)	( 2)	(0.016)	
(b) その他費用	0	0.003	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査にかかる費用 その他は、信託事務の処理に要する諸費用等
(監査費用)	( 0)	(0.001)	
(その他)	( 0)	(0.001)	
合計	56	0.567	

(注1) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 金額欄は項目ごとに円未満は四捨五入しています。

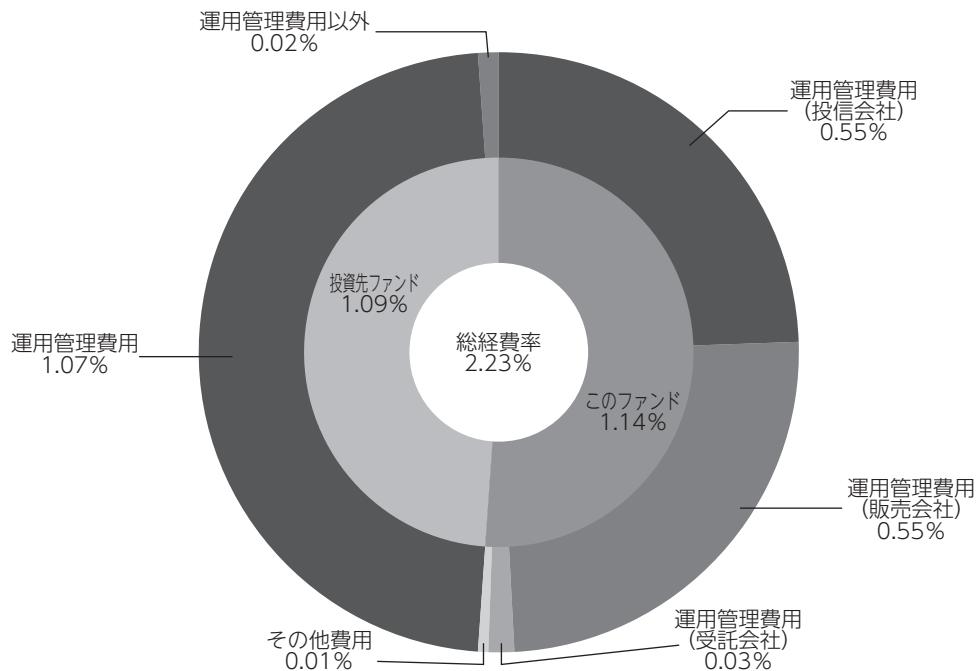
(注3) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(注4) 各項目の費用は、このファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く）が支払った費用を含みません。

## (参考情報)

### ◆総経費率

当社成期中の運用・管理にかかった費用の総額を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は2.23%です。



総経費率 (①+②+③)	2.23%
①このファンドの費用の比率	1.14%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	1.07%
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.02%

(注1) ①の費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

(注4) 投資先ファンドとは、このファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

(注5) ①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注6) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注7) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

## ■売買及び取引の状況 (2025年3月28日から2025年9月25日まで)

### 投資証券

	第 1 期 ～ 第 2 期			
	買 付		売 付	
	□ 数	金 額	□ 数	金 額
外 国 邦 貨 建	千口 773.61989	千円 770,000	千口 —	千円 —

(注) 金額は受渡代金です。

## ■親投資信託受益証券の設定、解約状況 (2025年3月28日から2025年9月25日まで)

	第 1 期 ～ 第 2 期			
	設 定		解 約	
	□ 数	金 額	□ 数	金 額
DIAMマネーマザーファンド	千口 4,968	千円 5,000	千口 —	千円 —

## ■利害関係人との取引状況等 (2025年3月28日から2025年9月25日まで)

期中の利害関係人との取引等はありません。

(注) 利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

## ■組入資産の明細

### (1) ファンド・オブ・ファンズが組入れた邦貨建ファンドの明細

フ ア ン ド 名	第 1 作 成 期 末		
	□ 数	評 価 額	比 率
フェルマットUCITS CATボンド・ファンド —Fクラス (アンヘッジドJPY) 円建て投資証券	千口 773.61989	千円 792,493	% 95.3
合 計	773.61989	792,493	95.3

(注) 比率欄は純資産総額に対する比率です。

### (2) 親投資信託残高

	第 1 作 成 期 末		
	□ 数	評 価 額	千円
DIAMマネーマザーファンド	千口 4,968	千円 5,010	

## ■投資信託財産の構成

2025年9月25日現在

項 目	第1作成期末	
	評価額	比率
投資証券	千円	%
DIAMマネーマザーファンド	792,493	94.6
コール・ローン等、その他	5,010	0.6
投資信託財産総額	40,177	4.8
	837,681	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨ててあります。%は、小数点第2位を四捨五入しています。

## ■資産、負債、元本および基準価額の状況

(2025年6月25日)、(2025年9月25日)現在

項 目	第1期末	第2期末
(A) 資産	748,721,559円	837,681,374円
コール・ローン等	26,087,625	40,177,047
投資証券(評価額)	717,628,469	792,493,894
DIAMマネーマザーファンド(評価額)	5,005,465	5,010,433
(B) 負債	1,594,781	6,304,068
未払収益分配金	—	4,020,010
未払信託報酬	1,590,703	2,278,200
その他未払費用	4,078	5,858
(C) 純資産総額(A-B)	747,126,778	831,377,306
元本	754,171,426	804,002,002
次期繰越損益金	△7,044,648	27,375,304
(D) 受益権総口数	754,171,426口	804,002,002口
1万口当たり基準価額(C/D)	9,907円	10,340円

(注) 設定当初の元本額は491,645,695円、当作成期間(第1期～第2期)中における追加設定元本額は312,356,307円、同解約元本額は0円です。

## ■損益の状況

[自2025年3月28日] [自2025年6月26日]  
[至2025年6月25日] [至2025年9月25日]

項 目	第1期	第2期
(A) 配当等収益	88,545円	15,684,204円
受取配当金	—	15,643,897
受取利息	88,545	40,307
(B) 有価証券売買損益	△2,366,066	24,870,393
売買益	5,465	24,870,393
売買損	△2,371,531	—
(C) 信託報酬等	△1,602,481	△2,284,058
(D) 当期損益金(A+B+C)	△3,880,002	38,270,539
(E) 前期繰越損益金	—	△3,880,002
(F) 追加信託差損益金	△3,164,646	△2,995,223
(配当等相当額)	(—)	(999,276)
(売買損益相当額)	(△3,164,646)	(△3,994,499)
(G) 合計(D+E+F)	△7,044,648	31,395,314
(H) 収益分配金	—	△4,020,010
次期繰越損益金(G+H)	△7,044,648	27,375,304
追加信託差損益金	△3,164,646	△2,995,223
(配当等相当額)	(89)	(999,298)
(売買損益相当額)	(△3,164,735)	(△3,994,521)
分配準備積立金	—	30,370,527
繰越損益金	△3,880,002	—

(注1) (B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) (C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注3) (F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注4) 分配金の計算過程

項 目	第1期	第2期
(a) 経費控除後の配当等収益	0円	14,806,019円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	0	19,584,518
(c) 収益調整金	89	999,298
(d) 分配準備積立金	0	0
(e) 当期分配対象額(a+b+c+d)	89	35,389,835
(f) 1万口当たり当期分配対象額	0.00	440.17
(g) 分配金	0	4,020,010
(h) 1万口当たり分配金	0	50

## ■分配金のお知らせ

決算期	第1期	第2期
1万口当たり分配金	－円	50円

※分配金を再投資する場合、分配金は税引後自動的に無手数料で再投資されます。

### 分配金の課税上の取扱いについて

- ・追加型株式投資信託の分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金（特別分配金）」があります。
- 分配落ち後の基準価額が個別元本と同額または個別元本を上回る場合には、分配金の全額が普通分配金となります。
- 分配落ち後の基準価額が個別元本を下回る場合には、下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）、分配金から元本払戻金（特別分配金）を控除した額が普通分配金となります。
- ・元本払戻金（特別分配金）が発生した場合は、分配金発生時における受益者毎の個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の受益者毎の個別元本となります。

## 《お知らせ》

### 約款変更のお知らせ

■当ファンドおよび当ファンドが投資対象とする「D IAMマネーマザーファンド」において、投資信託及び投資法人に関する法律第14条の改正に伴い、「運用報告書の交付」を「運用状況にかかる情報の提供」に変更しました。

(2025年4月1日)

2023年11月に「投資信託及び投資法人に関する法律」の一部改正が行われ、交付運用報告書については書面交付を原則としていた規定が変更されました。本件により、デジタル化の推進を通じて顧客の利便性向上を図るとともに、ペーパーレス化による地球環境の保全など、サステナビリティへの貢献に繋がるものと捉えております。今後も顧客本位の業務運営を確保しつつ、電磁的方法での情報提供を進めてまいります。

# フェルマットUCITS CATボンド・ファンドーFクラス (アンヘッジドJPY)

当ファンドは「One／フェルマット・CAT債券ファンド（年4回決算型）（為替ヘッジなし）」が投資対象とする外国投資証券です。

当ファンドの仕組みは次の通りです。

形態	アイルランド籍外国投資法人／円建て投資証券
主要投資対象	CAT債券*を主要投資対象とします。 *CAT債券とは、保険会社等の企業や政府などから大災害時等のリスクを移転する債券です。投資家は、一定の条件を満たす大規模な災害等（ハリケーン・地震・洪水等）による損失リスクを負う代わりに、相対的に高いクーポンが期待できます。
投資態度	①主として世界のCAT債券に投資することにより、リターンの獲得をめざします。 ②投資対象とする大部分のCAT債券は満期までの期間が1～5年です。 ③投資に当たっては、徹底的な調査、独自のモデルを活用したリスク分析および価格分析を行い、各CAT債券の投資機会を評価します。 ④保険会社等が発行する債券（劣後債も含まれます）に純資産総額の10%を上限として投資する場合があります。 ⑤ファンドのパフォーマンスに重大な悪影響を及ぼす可能性が高いと判断する特定の市況環境等においては、純資産総額の100%を現金・預金等短期金融商品、国債、国際機関債等に投資する場合があります。 ⑥原則として組入非米ドル建て資産について、対米ドルでヘッジを行う方針です。 ⑦ファンドの資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。
主な投資制限	①投資信託証券への投資割合は、純資産総額の10%を超えないものとします。 ②ヘッジ目的でのみ、デリバティブ取引等でショートポジションをとる場合があります。 ③原則として純資産総額の10%を超える借入れは行いません。
管理会社	カーン・グローバル・ファンド・マネージャーズ（アイルランド）リミテッド
投資顧問会社	フェルマット・キャピタル・マネジメント・エルエルシー
管理事務代行会社 兼名義書換代理人	ステート・ストリート・ファンド・サービスズ（アイルランド）リミテッド
保管銀行	ステート・ストリート・カストディアル・サービスズ（アイルランド）リミテッド

※なお、現時点で開示できる情報はございません。

# DIAMマネーマザーファンド

## 運用報告書

第16期（決算日 2025年4月7日）

（計算期間 2024年4月6日～2025年4月7日）

DIAMマネーマザーファンドの第16期の運用状況をご報告申し上げます。

当ファンドの仕組みは次の通りです。

信託期間	2009年10月29日から無期限です。
運用方針	安定した収益の確保をめざします。
主要投資対象	国内発行体の公社債、転換社債、ユーロ円債、資産担保証券ならびにCD、CP、コールローン等の国内短期金融資産を主要投資対象とします。
主な組入制限	株式への投資割合は、純資産総額の10%以下とします。 外貨建て資産への投資は行いません。

### ■最近5期の運用実績

決算期	基準価額	債券組入比率		新株予約権付社債（転換社債）	債券先物比率	純資産額
		期騰	中落率			
12期(2021年4月5日)	円 10,080	% △0.1	% 62.4	% —	% —	百万円 1,064
13期(2022年4月5日)	10,071	△0.1	76.3	—	—	1,192
14期(2023年4月5日)	10,063	△0.1	71.8	—	—	1,253
15期(2024年4月5日)	10,055	△0.1	62.0	—	—	483
16期(2025年4月7日)	10,065	0.1	81.1	—	—	3,881

(注1) 債券先物比率は、買建比率－売建比率です。

(注2) 当ファンドのコンセプトに適した指標が存在しないため、ベンチマーク及び参考指標を定めておりません。

(注3) △（白三角）はマイナスを意味しています（以下同じ）。

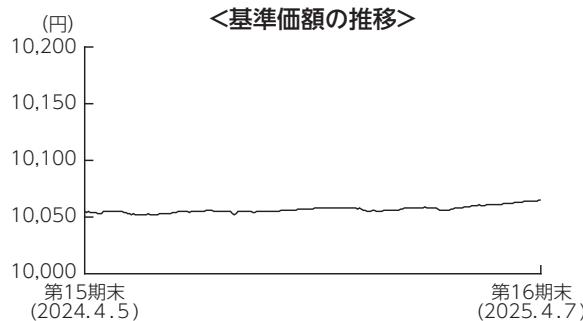
## ■当期中の基準価額の推移

年 月 日	基 準 価 額		債組入比率	新株予約権付 社債(転換社債) 組入比率	債先物比率
	騰 落 率	円	%	%	%
(期 首) 2024年 4月 5日	10,055	—	62.0	—	—
4 月 末	10,055	0.0	56.0	—	—
5 月 末	10,052	△0.0	79.1	—	—
6 月 末	10,055	0.0	82.7	—	—
7 月 末	10,053	△0.0	74.7	—	—
8 月 末	10,055	0.0	82.6	—	—
9 月 末	10,057	0.0	82.6	—	—
10 月 末	10,058	0.0	86.8	—	—
11 月 末	10,056	0.0	77.5	—	—
12 月 末	10,059	0.0	82.4	—	—
2025年 1 月 末	10,058	0.0	78.9	—	—
2 月 末	10,061	0.1	81.6	—	—
3 月 末	10,064	0.1	81.1	—	—
(期 末) 2025年 4月 7日	10,065	0.1	81.1	—	—

(注1) 謄落率は期首比です。

(注2) 債券先物比率は、買建比率－売建比率です。

## ■当期の運用経過（2024年4月6日から2025年4月7日まで）



### 基準価額の推移

当期末の基準価額は10,065円となり、前期末比で0.1%上昇しました。

### 基準価額の主な変動要因

当ファンドは、主としてわが国の短期公社債に投資し、安定した収益の確保をめざした運用を行いました。当期間は、保有債券からの利息収入などがプラスに影響し、前期末比で基準価額は上昇しました。

## 投資環境

国内短期金融市场では、3ヵ月物国庫短期証券利回りはゼロ近辺で始まりましたが、日銀が2024年7月、2025年1月に政策金利を引き上げたことから、同利回りは徐々に上昇しました。

## ポートフォリオについて

残存期間の短い国債などで運用を行いました。

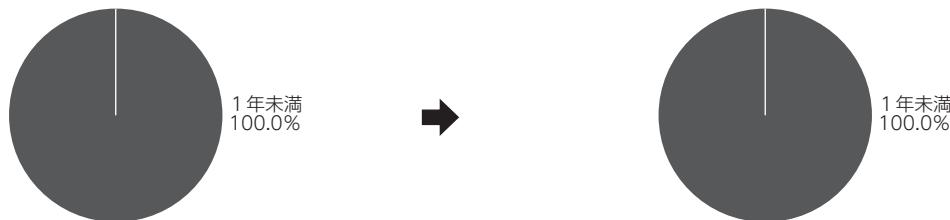
### 【運用状況】

※比率は組入債券の時価評価額に対する割合です。

#### ○残存年限別構成比

期首（前期末）

当期末



## 今後の運用方針

日銀は2025年3月の金融政策決定会合で、政策金利を0.50%とする金融政策を維持しました。日銀は引き続き政策金利の引き上げを行うと見られますが、米国の関税政策の先行きなど、内外経済の不確実性が高い中では日銀は慎重に利上げを行うと見られ、今後の金利上昇は限定的なものとなることが見込まれます。そのため、今後も公社債などへの投資を通じて、安定的な運用をめざします。

## ■ 1万口当たりの費用明細

計算期間中に発生した費用はありません。

## ■ 売買及び取引の状況 (2024年4月6日から2025年4月7日まで)

公社債

		買付額	売付額
国内	国債証券	千円	千円
国内	国債証券	11,312,467	3,666,456 (4,800,000)

(注1) 金額は受渡代金です（経過利子分は含まれておりません）。

(注2) ( ) 内は償還による減少分で、上段の数字には含まれておりません。

## ■ 利害関係人との取引状況等 (2024年4月6日から2025年4月7日まで)

期中の利害関係人との取引状況

決算期	当期					
区分	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B	B/A	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	D/C
公社債	百万円 11,312	百万円 1,099	% 9.7	百万円 3,666	百万円 199	% 5.4

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当期における当ファンドにかかる利害関係人とは、みずほ証券です。

## ■組入資産の明細

### 公社債

#### (A) 債券種類別開示

##### 国内（邦貨建）公社債

区分	当期						期末		
	額面金額	評価額	組入比率	うちBB格以下組入比率	残存期間別	組入比率	5年以上	2年以上	2年末満
国債証券	千円 3,150,000	千円 3,147,577	% 81.1	% —	% —	% —	% —	% —	% 81.1
合計	3,150,000	3,147,577	81.1	—	—	—	—	—	81.1

(注) 組入比率は、期末の純資産総額に対する評価額の比率であり、小数点第2位を四捨五入しています。

#### (B) 個別銘柄開示

##### 国内（邦貨建）公社債銘柄別

銘柄	当期				期末	
	利率	額面金額	評価額	償還年月日		
(国債証券)	%	千円	千円			
1261回 国庫短期証券	—	100,000	99,997	2025/04/10		
1280回 国庫短期証券	—	300,000	299,979	2025/04/14		
1283回 国庫短期証券	—	400,000	399,908	2025/04/28		
1267回 国庫短期証券	—	400,000	399,844	2025/05/12		
1289回 国庫短期証券	—	500,000	499,730	2025/05/26		
1290回 国庫短期証券	—	400,000	399,752	2025/06/02		
1238回 国庫短期証券	—	50,000	49,960	2025/06/20		
1279回 国庫短期証券	—	300,000	299,715	2025/07/10		
1244回 国庫短期証券	—	100,000	99,900	2025/07/22		
1291回 国庫短期証券	—	400,000	399,372	2025/09/10		
457回 利付国庫債券（2年）	0.1000	200,000	199,420	2026/02/01		
合計	—	3,150,000	3,147,577	—		

## ■投資信託財産の構成

2025年4月7日現在

項目	当期		比率
	評価額	千円	
公社債	3,147,577	千円	%
コール・ローン等、その他	734,394		18.9
投資信託財産総額	3,881,972		100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨ててあります。%は、小数点第2位を四捨五入しています。

## ■資産、負債、元本および基準価額の状況

(2025年4月7日)現在

項	目	当期末
(A) 資	産	3,881,972,229円
コ 一 ル 一 ノ ン 等	債(評価額)	734,359,151
公 社		3,147,577,500
未 収 利 息		21,880
前 払 費 用		13,698
(B) 負 債		—
(C) 純 資 産 総 額(A-B)		3,881,972,229
元 本		3,856,870,274
次 期 繰 越 損 益 金		25,101,955
(D) 受 益 権 総 口 数		3,856,870,274口
1 万 口 当 た り 基 準 価 額(C/D)		10,065円

(注1) 期首元本額 481,233,562円  
 追加設定元本額 9,658,635,020円  
 一部解約元本額 6,282,998,308円

One/ファイデリティ・ブルーチップ・グロース株式ファンド (成長型) 9,943,324円  
 One/ファイデリティ・ブルーチップ・グロース株式ファンド (毎月決算・予想分配金提示型) 1,988,665円  
 期末元本合計 3,856,870,274円

(注2) 期末における元本の内訳

バンクローン・ファンド (ヘッジなし)	15,843,407円
バンクローン・ファンド (ヘッジあり)	13,867,169円
バンクローン・ファンド (ヘッジなし/年1回決算型)	1,088,285円
バンクローン・ファンド (ヘッジあり/年1回決算型)	98,095円
新光ピムコ・ストラテジック・インカム・ファンド4月号	11,377円
新光ピムコ・ストラテジック・インカム・ファンド5月号	98,027円
新光ピムコ・ストラテジック・インカム・ファンド6月号	989,197円
新光ピムコ・ストラテジック・インカム・ファンド7月号	395,083円
新光ピムコ・ストラテジック・インカム・ファンド8月号	494,102円
新光ピムコ・ストラテジック・インカム・ファンド9月号	494,102円
ダブルライン・シラー・ケーブ米国株式プラス<為替ヘッジあり>	791,316円
ダブルライン・シラー・ケーブ米国株式プラス<為替ヘッジなし>	2,474,972円
One/フェルマット・CAT債券ファンド (年4回決算型) (為替ヘッジなし)	4,968,204円
One/ファイデリティ・ブルーチップ・グロース株式ファンド (毎月決算・予想分配金提示型)	9,939円
ウェリントン・トータル・リターン債券ファンド (年1回決算型) (為替ヘッジあり)	9,940円
ウェリントン・トータル・リターン債券ファンド (年4回決算型) (為替ヘッジあり)	9,940円
ウェリントン・トータル・リターン債券ファンド (年1回決算型) (為替ヘッジなし)	5,768,275円
ウェリントン・トータル・リターン債券ファンド (年4回決算型) (為替ヘッジなし)	2,884,138円
クルーズコントロール	3,674,777,764円
USストラテジック・インカム・ファンドAコース (為替ヘッジあり)	993,740円
USストラテジック・インカム・ファンドBコース (為替ヘッジなし)	1,987,479円
マシューズ・アジア株式ファンド	14,723,185円
One 世界分散セレクト (Aコース)	99,040円
One 世界分散セレクト (Bコース)	99,040円
One 世界分散セレクト (Cコース)	99,040円
世界8資産リスク分散バランスファンド (目標払出し型)	99,109円
モルガン・スタンレーUSハイイールド債券ファンド (毎月決算型) (為替ヘッジあり)	188,380円
モルガン・スタンレーUSハイイールド債券ファンド (毎月決算型) (為替ヘッジなし)	109,063円
モルガン・スタンレーUSハイイールド債券ファンド (年1回決算型) (為替ヘッジあり)	297,442円
モルガン・スタンレーUSハイイールド債券ファンド (年1回決算型) (為替ヘッジなし)	118,977円
ファンズミス・グローバル・エクイティ・ファンド	99,255,584円
PIMCOストラテジック・インカム・ファンド (為替ヘッジあり)	301,134円
PIMCOストラテジック・インカム・ファンド (為替ヘッジなし)	1,493,740円

## ■損益の状況

当期 自2024年4月6日 至2025年4月7日

項目	当期
(A) 配当受取	等利息
(B) 有価証券売買	売買損益
	買益
	売損
(C) 当期	損益
(D) 前期	金(A+B)
(E) 解約	繰越損益
(F) 追加信託	差損益
(G) 合計	(C+D+E+F)
次期	繰越損益
	金(G)

(注1) (B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) (E)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

(注3) (F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

## 《お知らせ》

### 約款変更のお知らせ

■投資信託及び投資法人に関する法律第14条の改正に伴い、「運用報告書の交付」を「運用状況にかかる情報の提供」に変更しました。

(2025年4月1日)